
公益社団法人 大阪府工業協会

平成27年度 事業計画書

自) 平成27年4月1日 ~ 至) 平成28年3月31日

わが国経済は、マイナス成長となった2014年から転じて緩やかながら回復基調をたどり、大手メーカーを中心とした企業業績の改善や雇用の増加、株高など明るさが見えてきている。また、円安基調が続く為替相場を受け、輸出型企業の収益性が好転してきているほか、家電分野などでは海外で生産している日本向け製品を国内生産に戻す動きも出てきている。

一方、こうした中であっても、中小製造業が置かれた経営環境は依然として厳しいものがある。受注単価は下落したまま上がらず、エネルギー価格の高止まりや円安による原材料仕入れ価格の上昇といった、コストアップ分を転嫁できていないケースが散見される。グローバル展開する企業の多くは、為替変動に左右されない消費地での生産を基本としているため、今後、国内回帰がよほど本格化し生産増強や設備投資が活発化しない限り、中小企業に広く恩恵がおよぶことは期待しにくいと考えられる。

当協会では、激しく変化する社会・経済情勢のなかで、企業とくに中小製造業が活路を見出し、さらに持続的成長を遂げるために、ものづくりの強化を柱とした経営革新・競争力向上への支援に注力していく。個々の企業の体質改善と人材開発によって経営基盤の強化を図り、企業の活力を高めることにより、地域経済ひいては広く産業界の底上げに貢献したいと考えている。

従来からの基幹事業である「人づくり」を中心とした研修事業もさらに活発に行い、製造業の基盤強化および新時代への対応を支援する。もう一つの柱である研究会活動・企業間の交流事業についても、変化の時代に求められる現実的な情報をタイムリーに提供することで多様なニーズに応えていく。

具体的には以下に示す計画にもとづき、人材育成も交流事業も企業内の各階層、各職種にあったきめ細かな対応を図るとともに、これからはものづくり分野にとどまることなく、周辺産業にも対象を拡大していき、協会事業をさらに活発に推進していく方針である。

平成27年度 事業計画

1

生産性向上・合理化推進事業

日本のものづくり企業を取り巻く環境は、めまぐるしいスピードで変化している。最近では、かつての過度な円高から一転、円安水準が続く為替相場を背景に、輸出型企業が業績を回復させるほか、大手メーカーが海外で生産している日本向け製品を国内生産に切り替えるなど、中小企業に恩恵をもたらす状況も生まれつつある。

こうした好機を取り込むためには、顧客の高い要求水準に応え得る品質と確かな納期、そしてコスト面での優位性を発揮するなど、生産体制を強固なものとしておかななくてはならない。

一方、グローバルな事業戦略においては、成長市場での適地生産の観点から、海外拠点の生産増強もこれからの重要な課題となる。その場合も国内で培った管理技法や改善ノウハウが活かせるため、マザー工場としての機能を充実させるためにも国内工場の底上げは必須である。

本事業では、現場力を高める管理・改善の実践手法、ならびにそれを担う人材の能力開発をテーマに様々な切り口でセミナーや研修講座を展開する。「人づくり」を通じて、製造業にとっての生命線ともいえる製造現場の基礎固めとさらなるレベルアップを強力に後押ししていく。

1-1 生産管理セミナー

様々な制約のなかでいかに効率良く生産し、かつ納期短縮、原価低減、在庫削減を実現させるか。ものづくりを支える各種管理手法を理解して実務への適用を図り、さらなる改善につなげる。

「日程計画」「工程管理」「納期短縮」
「原価計算」「原価管理」「コストダウン」
「在庫の管理と削減」「購買・外注管理」
「設備管理」「安全・衛生管理」 など

1-2 品質管理セミナー

製造品質の確保・向上のための実務知識を修得。管理スタッフだけでなく現場の作業員・監督者も品質意識を高め、工程で品質を造り込む、不良品を後工程に流さない方策を考える。

「QC 7つ道具の使い方」「ポカミス予防」
「QC工程表作成」「製造作業標準書作成」
「クレーム再発防止」「外注品の品質管理」
「品質保証体制の構築」「検査実務」 など

1-3 現場改善セミナー

製造現場の改善技法を学び、ムダを見つける眼と生産性を引き上げる実践ノウハウを身につける。現状に満足せず、改善への継続的な取り組みを定着させることで現場力のレベルアップを図る。

「5S活動」「7つのムダ排除」「作業改善」
「段取り時間の短縮」「チョコ停改善」
「ビデオを使った現場改善」「簡易自動化」
「セル生産」「運搬・物流改善」 など

1-4 工場管理実務研修

工場の管理・改善を図る具体的なテーマを相互に関連付け、中長期間の総合研修コースを開催。工場改革の推進役として、製造部門を統括する責任者として必要なスキルと実務知識を修得する。

「現場改善実践研修コース」
「生産管理ベーシックコース」
「製造部門管理者研修」
「資材調達・外注管理実務コース」 など

1-5 製造部門人材育成研修

製造第一線の監督者・リーダー層、および若手層を対象に、QCD管理の考え方やOJT、技能伝承など職場運営の基本を修得させ、モチベーションアップと現場力の底上げを図る。

「製造現場の部下指導」「コーチング」
「改善リーダー養成」「技能伝承、多能工化」
「小集団活動」「若手社員スキルアップ」
「中堅リーダー禅寺合宿研修」 など

世界的な企業間競争のなかで日本企業が戦っていくためには、ものづくりの現場力に加えて技術力の高度化、開発力の強化が欠かせない。昨今、新興国の追い上げは著しいが、基幹的な機能部品や素材開発、生産技術など日本が圧倒的な優位性を保っている分野は決して少なくない。

今後は、こうした国内の技術蓄積を活かして競争力にさらに磨きをかけ、イノベーション（技術革新）による新たな価値創造を図っていく必要がある。その対象は、先端分野の新技术・製品開発にとどまらず、加工技術や材料といったものづくりの基盤領域、あるいは地球環境の保全に寄与する省エネルギーやCO₂の排出削減といった環境技術の領域など多岐にわたっている。

中小企業においても得意分野を活かした独自のノウハウや匠の技で、世界が認める技術を提供する事例が多く存在しており、技術革新の担い手は大企業だけではない。そのための重要な鍵となるのが人材の育成である。新しい価値を生み出す設計・開発者はもちろん、図面をもとに部品・製品を形づくる加工分野の技術者、効率的で安価な作り方を考える生産技術者などがそれぞれの立場で研鑽を重ねていく必要がある。本事業では、その際求められる知識や情報を得る場を提供し、技術力の維持・強化のための人材育成を支援していく。

2-1 工業技術セミナー

開発・設計・生産に携わる技術者を対象に実用知識を修得する場を提供。金属加工や樹脂成形などの固有技術、電気回路やメカトロなどの生産技術、製品開発や部品加工に必須の材料知識など、ものづくりに関わる技術課題を網羅的に取り上げる。

「切削」「プレス」「溶接」「熱処理」「塗装」「めっき」「腐食防止」「機械材料」「金型」「プラスチック成形」「電気」「電子回路」「シーケンス制御」「油空気圧技術」 など

2-2 環境技術セミナー

環境負荷低減に役立つ新しい技術を理解し、活用するためのセミナー。例えば、省エネ設計、環境配慮製品の開発、生産活動で注意すべき環境規制など、環境管理活動にまつわる様々なテーマを取り上げる。

「生産工程のエネルギーコスト削減策」「工場エアーの省エネ・トラブル対策」「有害化学物質管理」「水処理と污水管理」「環境法規制対応」「環境配慮設計」 など

2-3 設計実務研修

ものづくりの最上流工程である設計・開発業務は、製品のコストや品質、加工性にも大きく影響を及ぼすため、技術者のスキルアップが欠かせない。また、図面は業務上の共通言語であり、誰もが備えるべき基本常識である。設計及び製図をテーマに実務視点での研修を実施する。

「JIS製図法」「図面の読み方・描き方」「CAD活用」「設計に必要な加工の知識」「治具設計」「検図」「デザインレビュー」「設計期間短縮」「設計部門改革」 など

2-4 技能開発訓練

実際に機械や電気設備などに触れ、実習を通してその仕組みや技能を修得する。研修施設を持つ企業と提携し、専門の指導員による技能訓練を行い現場オペレータのレベルアップを図る。

「機械保全実習」「油圧・空圧機器制御」「からくり改善体験」「設備の異常発見」「シーケンス制御」「電気回路配線」「塗装」「はんだ付け」「測定器の使い方」 など

1年間にわたる技術者育成研修。次代の技術力を担う若手・中堅技術者を対象に、機械系の工学基礎理論から応用技術知識までの修得、さらに高度な先端技術への理解を深めさせることを目的として、講義、実習、見学を行う。

昭和36年以来毎年継続して開講しており、これまでに2,300名もの修了生を送り出してきた。就業と研修の両立のため、講義は夜間に実施。大学の機械系学部準じた基礎・専門科目をじっくり学ぶとともに、旋盤・溶接・CADなどの実技科目、実際のものづくり現場に触れる見学科目を組み合わせ、技術者としての総合力を養う。

今年度は、より実学指向を目指して講義内容を見直すとともに、企業の実務者等が講師を務める特別講義科目では、最近のトピックテーマに再編。また、見学研修の訪問先再選定を行うなどの充実を図り、第55期として実施する。(4月開講～翌年3月修了。計130日間)

- 〔講義研修〕 材料力学、金属材料、機械要素、製図、加工技術など21科目
(大阪府立大学大学院工学研究科の教授を中心に講師を招聘)
特別講義として、デザイン、3Dプリンタ、生産革新など6科目
- 〔実技研修〕 NC旋盤、油空圧、溶接、CADなど7コースを設定(選択制)
(ポリテクセンター関西・兵庫の実習施設にて実施)
- 〔見学研修〕 ダイキン工業(株)、(株)ジェイテクト、大阪機工(株)など10社を訪問

2-6 切削加工技術者養成講座

切削加工は部品・治具の製作に最も多用される加工法であるにも関わらず、工業高校や大学の機械系学部でさえ学ぶ機会がほとんどなく、現場に配属されて初めて接するような状況にある。そこで今回は、切削加工技術者に必要な知識を体系的に把握・理解することを目的に夜間24回の講義、加工実習、工場見学を組み合わせた6か月間のプログラムを編成する。実施にあたっては、大阪工業大学工学部の協力を得て、経験豊富な講師陣を迎えとともに大学が保有する実習機を活用し、より実践の場で役立つ内容とする。

- 〔講義研修〕 切削基礎理論、切削工具、被削材の知識、計測技術、最適加工条件など12科目(夜間に実施)
- 〔実技研修〕 旋盤、直立ボール盤、立フライス盤、NC加工、手作業実習の5科目
(大阪工業大学ものづくりセンター〈モノラボ〉で実施)
- 〔見学研修〕 工作機械メーカーとしてDMG森精機(株)、切削工具メーカーとして三菱マテリアル(株)を訪問

企業の持続的発展のためには、総務・人事・財務・経理などのサポート機能、および営業体制やマーケティング機能の充実が欠かせない。ひと・モノ・カネ・情報などの経営資源を効率的に活用し、組織の目標達成に向けていかに調整・統制していくかは、製造業に限らずいかなる企業にも共通する課題である。

なかでもお金の問題は最優先事項で、経営管理を的確に行い、しっかり利益を確保していかなければ企業の発展はおろか存続すら危うくなる。きちんと採算がとれているか、原価や経費が上昇していないか、在庫が過剰になっていないか、そして売掛金は回収できているかなどを管理する仕組みを上手く機能させることが、継続的に利益を獲得していくための前提となる。

それに加えて、売り上げをいかに伸ばしていくかも重要で、販路開拓・新規顧客の獲得と既存顧客の深掘りの両面から受注拡大を図っていかなければならない。これまでの営業スタイルの見直しも必要となり、顧客目線での提案型・課題解決型アプローチやWEBを活用したマーケティングなど、いかにして顧客から選ばれるかの工夫が大きな課題となる。また、事業内容によっては国内需要だけでなく世界に目を向け、海外に打って出る、あるいは海外の需要を取り込むことをこれから本格的に考えていく必要がある。

本事業では、企業におけるこうした経営強化、営業力向上、国際化の取り組みを支援するとともに、最も重要な経営資源である「ひと」に関して、人事・労務管理の実務課題解決および人材育成・能力開発の促進に資することを目的に、以下のような事業を展開する。

3-1 経営管理セミナー

経営体質の改善、収益の向上を目的に、経営管理の具体的な課題についてさまざまなテーマを設定したセミナーを開催。部門管理者・実務スタッフの実務スキルの向上を促す。

「決算書の読み方」「管理会計」「資金繰り」
「税務の基本知識」「原価計算」「経営会議」
「工場コストの見える化」「与信管理」
「物流管理」「在庫管理・棚卸し」 など

3-2 人事管理セミナー

人事管理の有効・適切な運営を目的に、実務者を対象とした具体的かつ詳細なセミナーを開催。労働関係法令等の理解、賃金管理、人事考課など人事労務管理上の多岐にわたる課題を取り上げる。

「総務人事の基礎知識」「給与計算の実務」
「総務の事務手続き」「人事考課のやり方」
「高齢者雇用と最適賃金」「年金基礎講座」
「就業規則の作り方」 など

3-3 営業強化セミナー

営業販売力の強化と営業マンの育成を目的として、階層別スキルアップ、商談や提案、交渉術などの営業力強化策。また、販売促進のためのツールづくりといった実践的テーマを取り上げる。

「営業部門階層別研修」「交渉力強化」
「若手営業社員のパワーアップ」
「提案型営業」「Webマーケティング」
「販促チラシ、カタログ作成」 など

3-4 国際経営セミナー

これからのグローバル化対応を目的とした各種セミナーを開催。経営者層には各国の産業動向を、実務者には貿易にかかる輸出入業務や国際調達などをテーマとし、知識の幅を広げる。

「貿易実務講座」「外国為替の基礎実務」
「国際調達のポイント」「輸出管理規制」
「海外販路開拓」「国際物流」「英文メール」
「海外勤務者の保険・税務」 など

3-5 経営管理実務研修

変化の時代に対応する経営革新、経営管理機能のさらなる強化を目指して、経営企画・管理スタッフを対象に、具体的な実務課題を掘り下げ、中期の研修を実施する。

「はじめて学ぶ経理の仕事」
「総務担当者スキルアップ」
「原価計算実務マスターコース」
「賃金制度の再設計コース」 など

3-6 職務別能力開発研修

若手から中堅層まで各部門第一線担当者を対象に、日常業務を全うするために必要な知識の習得と職務実践力の向上を図る。同時に、動機づけを促し業務の円滑な推進に資する。

「報・連・相の鉄則」「製造現場の鉄則」
「入社2年目研修(間接部門編、製造部門編)」
「新入社員フォローアップ研修」「総務担当者の基礎実務」 など

3-7 階層別能力開発研修

経営目標の達成に向けた各自の責任・役割の自覚を促すため、各階層に求められる実務知識・基本行動を整理する。立場に応じた職責を全うするための要諦を演習やグループ討議を通じて指導する。

「部長研修」
「課長研修」
「係長研修」
「主任研修」

3-8 内部監査員教育研修

ISOの有効性を活かすために必須の、内部監査を担う人材を養成する。今年度は、国際規格の改訂が予定されており、そちらへの対応も促す。

「ISO 9001 内部品質監査員養成講座」
「ISO14001内部環境監査員養成講座」

本事業は、新しい知識・情報を得るだけでなく、参加者相互の交流および連携の促進を図る研究会活動を主としたもので、研修などの人材育成と並ぶ協会事業の大きな柱である。

いま、日本企業をとりまくビジネス環境を俯瞰すると、人口減少と市場の成熟化による国内需要の減衰、顧客ニーズの多様化・細分化、新興国の急激な追い上げに対抗し得る製品開発の必要性と知的財産権問題、環境保全などさまざまな課題が山積している状況にある。

こうしたなか、企業が現状への対処だけでなく、次なる活路を拓いていくためには、新しい視点や柔軟な発想が必要であり、従来の垣根を越えた幅広い領域から知恵と情報を集めていかなければならない。しかし、個々の企業では情報収集にも自ずと限界があるため、当協会ではいくつもの研究会を運営し、未知の情報に触れる場を提供している。

異業種・異分野の多彩な企業、かつ規模の大小を問わず様々な企業が集うのは、当協会ならではの特色である。その相互理解を促し、そこから新たなビジネスの芽を育むことも、産業団体としての使命であると考えており、本事業は今後さらに充実させていく。

本年度も経営面、技術面からユニークなテーマを設けた研究会をいくつも開催し、経営に役立つヒントを収集するとともに、相互研鑽を通じたヒューマンネットワークの形成を支援する。

4-1 工場経営研究会

ものづくり企業の経営幹部・工場責任者が一同に会し、ディスカッションや情報交換により相互研鑽を図る。企業規模や事業内容が違っていても、製造業の経営の一翼を担う者として共通する課題をとりあげ、全20回の研究会を開催。各回のテーマは、生産管理や改善技法など工場に不可欠な実務知識から、財務・法務問題、人事労務、人材育成までを幅広く網羅している。将来にわたって事業を継続させていくための先導者として、経営感覚を身につけるとともに、経営の視点から工場全体を統括・マネジメントできる力を高めていく。

4-2 知的財産研究会

後援／近畿経済産業局 大阪府

企業における法務や知的財産担当者、研究・開発部門スタッフ、および弁護士・弁理士などの専門家を対象に全10回の研究会を開催。運営にあたっては大阪工業大学知的財産学部と連携し、これからの知財保護・活用戦略を考えるさまざまなテーマを取り上げる。

今年度は、昨年の参加者アンケートで要望の多かった、企業の知財活動の実例、海外展開にまつわる知財面での攻めと守りの戦術、法制度改定にともなう実務対応といった、喫緊の課題を掘り下げていき、情報収集のみならず参加者間の意見交換を行う。

4-3 事業承継対策研究会

中堅・中小企業の経営者および経営後継者を対象に、事業承継にまつわる諸問題をクリアにするための研究会を開催する。事業承継に関して押さえておきたい経営管理の実務、法律・税制面の知識、人事・労務面での備え等々幅広いテーマを取り上げるとともに、ケーススタディとして事業承継の成功・失敗事例とその要因分析を行う。同じ立場にある者同士が課題を共有し、活発な意見交換・交流を図ることで経営者としてのマインドを醸成する。

4-4 海外事業戦略研究会

海外進出を検討している企業に対する適切な情報提供の場として、経営者層をはじめ海外事業部門や経営管理スタッフを対象に開催。海外事業展開におけるさまざまな課題をステージ（進出プロセスの各段階）ごとに取り上げ、留意点や具体的な対応策を学んでいく。

研究会はレクチャーと参加者間のディスカッションで構成。講演者には、海外進出の実務や駐在経験のある現役社員あるいは企業OBを招き、実例をもとに議論を深める。

4-5 経営革新とマネジメント研究会

中堅・中小企業の経営者および経営幹部を対象とした研究会。これからの生き残りをかけた変革への挑戦、時代に即したマネジメントのあり方といった、変化の時代への対応を経営の視点から考えていく。様々なテーマがあるなかで、関心度が高いと思われるものをピックアップして開催する。

「経営と経理研究会」

経営者・経営幹部あるいはその候補者を対象とし、経営に密接に関わる経理・財務の重点課題を体系的に取り上げる研究会。企業会計に関する幅広い知識を身につけ、実践的なノウハウを学ぶことで、経営判断に必要な計数感覚を身につける。それと同時に、経理の仕組みを知ったうえで、これからの経営体質の強化策を考える場とする。

「経営と人事研究会」

最も重要な経営資源である「人」のマネジメントをテーマにした研究会。人事・労務管理にまつわる課題は幅広く、また様々な法令の規制が関わってくる。社会情勢の変化や労働関係の法改正などの最新動向、運用面での具体策や他社の事例を共有し、これからの時代の人事・労務管理を円滑に進める方策をともに考える。

4-6 省エネルギー対策研究会

後援／近畿経済産業局 大阪府

エネルギー資源のほとんどを輸入に頼っている現状のなかで、エネルギー価格の上昇は大きなリスクであり、国内製造業にとってさらなるエネルギーコストの削減が重要かつ緊急の命題となっている。本研究会では、生産設備の電力や熱などのムダを削減し、エネルギー消費を極力抑えるための手法や最新技術を学び、現有設備の見直し・省エネ改善の促進を図る。これにより工場オペレーションコストの圧縮による経営への貢献、企業の社会的責任としての環境負荷低減を同時に実現する工場運営のあり方を追求する。

4-7 環境経営実践研究会

企業から見た環境問題は、リスクである反面新たなビジネスチャンスの芽も包含している。例として、環境配慮や省エネ性、リサイクル適性を謳った商品の開発は、新市場の獲得に向けて可能性が広がりがつつある。また、エネルギー関連の環境技術については、再生可能エネルギーを利用した発電やコージェネレーションによる分散型電源、およびそのエネルギーマネジメントといった分野で新たなニーズに期待でき、さらに電気自動車や燃料電池自動車向けのインフラ整備に関しても今後の動向は注目に値する。これらの分野の最新情報を収集する場として本研究会を開催する。

4-8 3Dプリンタ実践導入研究会

「ものづくりの世界を変える」「誰でもメーカーになれる」など、最近話題の3Dプリンタ。これまでの常識では考えられなかった用途や実際の製品に利用され始め、中小企業においても活用する動きが広がっている。本研究会では、3Dプリンタに関わる最新情報、およびさまざまな導入事例を取り上げ、3Dプリンタを導入するにあたってのヒント、活用するためのノウハウを獲得する。

4-9 工作機械加工技術研究会

機械加工はものづくりの基盤技術であり、日本が世界に誇れる分野である。最近の工作機械は、超精密加工、高速化、省エネ性などと時代の要請にあわせて進化を続けており、国際的な企業間競争を勝ち抜くために、より一層技術レベルの向上が図られている。ユーザーにとっても、こうした先端技術を取り入れることが競争力を高めることにつながるのは確かで、今後の技術動向に注目しておく必要がある。本研究会では、機械加工、工作機械の最新情報を得るため、機械メーカーの見学や先進事例を紹介する講演会を開催する。

4-10 新産業と技術革新研究会

変化の激しい時代には、自身の目と耳で的確な情報を収集することが欠かせない。

そこで、新たな市場領域の開拓、異分野でのビジネスチャンスの獲得、あるいは生産システムの再構築など、事業の新展開につながるヒントを得るため、以下に挙げるようなさまざまな研究会を開催。個々の企業ではなかなか得られない情報に触れる機会を提供する。

「優れた中堅企業 ものづくり経営研究会」

特徴的な技術、あるいはニッチ市場で強みを発揮するなど、個性豊かで活力のある中堅・中小企業を訪問。実際のものづくり現場を見学するとともに、その会社のトップと意見交換を行うことで、企業経営の考え方、市場戦略に関するヒントを得る。

「生産技術レベルアップ研究会」

生産性向上のヒントやアイデアを掴むため、創意工夫による優れた生産技術力を有する工場を訪問。絶え間ない改善活動により生産の効率化と品質の向上、人と組織の活カアップ、技能伝承や人材育成などに成果を上げている、実際の取り組み事例に学ぶ。

「進化する次世代工場 最新技術導入研究会」

オンデマンド生産、パーソナライズ化、スマートファクトリーといった、先進企業で採り入れられている最新テクノロジーの潮流をつかむ。ITやFAシステム、ロボットの高度化、3Dプリンタの導入などにより、変貌・進化するものづくり現場。生産効率やコストを損なうことなく、細分化したニーズに的確に応えていく次世代工場の凄みに迫る。

「次世代自動車テクノロジー研究会」

今や環境対応型自動車が主流となり、プラグインハイブリッド車、燃料電池車の登場で市場が活性化している。また、自動運転や衝突防止などの運転支援システムも進化している。こうした流れを捉え、中小企業にとっての今後のビジネスチャンスを探るため、自動車メーカーや部品メーカー各社の戦略および技術動向を知る場として研究会を開催する。

「航空機産業研究会」

民間航空機の生産需要は世界的な伸長が続いており、今後さらなる発展が見込まれる。かつ機体生産の国際分業のなかで、日本企業の存在感は非常に高まってきている。そこで、これから航空機産業へ参入しようとする企業への情報提供の一環として、航空機関連メーカーからゲストスピーカーを招き、外注加工などのニーズや市場動向を講演会形式で紹介する。

当協会は約 1,200 社からなる会員組織を有し、大企業から小規模企業まで、また機械、金属、電機、化学、食品、あるいは卸売業といったように、規模や業種の異なる多様な事業所が参画していることが大きな特色である。こうした会員事業所間の有機的な連携と協調を促進するため、経営支援および会員交流に関わる事業を積極的に展開していく。

5-1 機関誌「商工振興」の刊行

大阪府商工労働部監修

会員と協会を結ぶ掛け橋として、協会の動き、会員事業所へのインタビュー記事、経営者や学識経験者による寄稿・提言を収録し、毎月1回・年12回刊行する。

5-2 経営指導・情報広報

会員事業所からの経営上、技術上の相談に応え、情報提供や専門家の紹介を行うほか、社内研修の要望に対しては、ニーズにあったカリキュラムの編成から講師派遣までをサポート。従業員の自己啓発・自主活動に対しては、通信教育講座および研修用DVD教材の貸し出し等により対応する。また、最近関心の高まっている産学連携についても、大学や公設研究機関の持つノウハウやリソースを中小企業が積極的に活用できるよう橋渡しを行い、個々の企業の技術課題解決を支援する。さらに、会員事業所を対象とした参加無料の講演会を開催し、時宜に応じたトピック的なテーマをとりあげ、経営に役立つ情報を発信していく。

5-3 新入社員教育講座

新入社員に職業人としての自覚を促すとともに、企業人として必要な基本行動・知識を修得させる。仕事に取り組む心構えと基本常識を指導する総合基礎教育のほか、職種別の導入教育やビジネスマナー研修を実施。さらに、機械金属、プラスチックメーカーに的を絞った専門知識の修得コース、規律や礼儀を身につけさせる合宿研修など、多様なニーズに合わせたカリキュラムを提供する。

5-4 経営者経営交流会

企業経営者として、経済の状況を見極めたうえで、自社の明日を考察する場として、あわせて経営者の相互交流の機会として「経営セミナー」を年2回開催。特色ある事業展開や商品戦略で注目を集める企業の経営者、大学教授、エコノミスト等を招聘しての講演会を行う。

5-5 経営マネジメントスクール

中堅・中小企業の若手管理職、管理職候補者を対象に、マネジメントの原理・原則を共に学ぶ場として開催。経営の持続的発展に貢献し、組織の目標を達成していくために必要な戦略的思考や分析能力、あるいは計画立案力、問題解決力、チームオペレーションといった、管理職としての本質的なスキルを高めることを目的とする。

5-6 新技術研究会

需要の変動に対応し、変種変量生産を機敏にこなす工場。オンリーワン技術で強みを発揮する工場。海外生産拠点のマザー機能を発揮する工場。などなど国内生産で強い競争力を持つ工場はまだ数多く存在し、日本のものづくりの底力を体現している。こうしたメーカーの現場見学と技術レクチャーを行い、独自のコンセプトを見る・聴く・学ぶことによって最新の技術動向をつかみ、今後の経営や工場運営に役立つ情報を吸収する。

5-7 施設・工場見学研修

異分野の現場に学ぶ見学研修を積極的に実施し、経営者あるいは技術者の情報収集ニーズに応えていく。三現主義という言葉があるように、机上の論理ではなく、実際の「現場」で「現物」を観察し「現実」を認識した上で問題解決を図ることが重要である。とくに、ものづくりにおいては「現場から学ぶ」ことが多く、生産性の向上、製品の改良、新製品開発のヒントも現場でこそ見出すことができる。見学先は、工場だけでなく物流倉庫や環境施設なども対象とする。

5-8 海外産業視察研修

海外に進出した日本企業や現地メーカーを訪問し、実際の姿を見て、聴いて、学ぶ機会を提供する。生産・市場のグローバル化が加速するとともに、世界の国々の経済情勢が刻々と変化するなか、「百聞は一見に如かず」の言葉どおり、現地を訪れることには大きな意義がある。訪問先は、最近中小企業のビジネス展開に関係の深いアジアの新興国を主体とし、いずれも製造企業への訪問により、ものづくり現場の現地見学および現地法人責任者とのディスカッションを通して、マスメディアでは得られない活きた情報を掴む。

5-9 優良従業員表彰

会員事業所における労使関係の安定と従業員の勤労意識増進を図るため、昭和37年より毎年実施している「優良従業員表彰」。永年勤続かつ他の模範となる従業員として事業主から推薦を受けた者を選考し、会長名による表彰を行う。

5-10 会員交流と懇親会

会員企業経営者・事業主の相互理解と親睦を深め、連携・協力が円滑に図られるよう、交流・懇親の場を設ける。

* 新春年賀交歓会 * 会員交流情報交換会 * 会員交流ゴルフコンペ